

学部長あいさつ

「ご卒業おめでとうございます！」

SGS News Letter 第16号をお届けします。

3月21日(土)に第5回目の学位授与式を挙行政いたします。120名ほどの卒業生がそれぞれの旅立ちを迎えます。大喜びして旅立つ学生、最後の最後までヒヤヒヤな思いをして旅立つ学生、社会人としての意欲に満ち溢れて旅立つ学生、それぞれの思い、期待、希望などを抱いているに違いありません。これからは、自分たちがどの様にして社会、そして日本を変えていくのかについて考えて欲しいと思います。

卒業生の皆さんには、自分の役割は何なのか、その役割を果たすためには何をしたらいいのかなど、課題は山積です。これまでやってきたこと、積み重ねてきたことを思い出し、焦らずに一歩一歩進んでいくことが重要です。そのためのSGSでの4年間だったことを思い出してください。

これからはアジアダイナミズムの時代だと寺島学長は言っております。その根拠は、わが国の貿易相手国のシェアの推移を見ると一目瞭然です。大中華圏、「陸の中国」(中国本土)と「海の中国」(香港、台湾、シンガポール)、いわゆるグレーター・チャイナとの貿易が50%を超える勢いで伸び、それに対し、米国とEUを足した数値は1980年代から減少し、今では24%程度です。恐らく保証人の皆さまが学ばれた頃の認識とは、異なっているのではないのでしょうか。

こうした変化に対応できるように本学部では、マカオ大学へ5つのゼミから学生を募り、2月に短期留学をいたしました。統合型リゾート、MICE、ゲーム論などのレクチャーを受け、実際にIR施設や名所旧跡を見学させていただきました。この短期留学については、2月22日の藤沢市市民講座(於:藤沢商会館ミナパーク)で報告させていただきました。

今後のプロジェクトは、新たに台湾の淡江大学及び中国文化大学と協力体制を構築し、学生のみならず、教職員間の交流も考えております。中国文化大学は、61学科もあるマンモス大学で、卒業要件としてTOEIC450点を課しています。今年の9月に日本語学科、12月に化学学科、数学学科の学生及び教職員が、多摩大学を訪問する予定です。また、2015年の5月に中国文化大学観光学科では、ホスピタリティ・観光学に関する全国大会を主催する予定で、その大会に本学部より学生や教職員を派遣して欲しいと招聘がありました。このように着々と交流の場を広げようと努力しております。学長が言っておられる「人は移動することで交流が生まれる。移動と交流によって人は賢くなる。そこからシナジーが生まれる。」に則って、SGSでは英語で授業を開講しているアジアの大学と提携し、交流を深めてまいります。学生には、将来へ向け視野を大きく広げる場として、積極的に参加していただければと考えています。

SGSの卒業生は、まだ社会人としての経験も浅く、自分たちのことで手一杯でしょう。しかし、1日も早く先輩を引っ張っていただく立場になっていただきたいと期待しております。また、忙しい日々の中でも、現役学生にアドバイスして頂くために、キャンパスに戻ってきて欲しいと願っています。

卒業生には、若い学部のことを忘れず、社会で頑張っていただきたいと思います。そして、4年間過ごした母校「多摩大学グローバルスタディーズ学部」のことを心に刻みながら旅立っていただければ幸いです。



学部長 安田 震一
(ヤスタ シンイチ)
William Shang
(ウィリアム シヤング)

今後のスケジュール

- 3月21日(土・祝)
学位授与式・卒業式
- 4月1日(水)~4月3日(金)
オリエンテーション
- 4月2日(木)
TOEIC試験
- 4月3日(金)
健康診断
- 4月5日(日)
入学式
- 4月6日(月)
春学期 授業開始
- 4月13日(月)~4月17日(金)
春学期 履修科目登録期間
- 4月20日(月)~4月24日(金)
春学期 履修科目確認期間
- 4月29日(水・祝)
昭和の日(授業あり)
- 5月2日(土)
特別研修日
- 5月14日(木)~5月20日(水)
春学期 履修科目中止期間
- 6月6日(土)
TOEIC試験

発行責任者:
学部長 安田 震一

多摩大学
グローバルスタディーズ学部

〒252-0805
神奈川県藤沢市市行802番地
TEL: 0466-82-4141
<http://www.tama.ac.jp/>

藤沢市市民講座2015「藤沢市の観光振興を考える」開催報告

2015年2月22日(日)午前10時30分から午後5時まで藤沢商工会館ミナパークにて、グローバルスタディーズ学部主催、多摩大学 藤沢市市民講座2015「藤沢市の観光振興を考える」を開催しました。今回のセミナーでは、藤沢市の観光資源を再認識しながら、観光振興に役立つ問題提起型プレゼンテーションや、参加者の皆様とワークショップ形式での討議等を行い、藤沢市の観光まちづくりを考えました。

当日は、悪天候でしたが、藤沢市民の方を中心に約20名にご参加いただき、また、学内からは、教職員11名、学生13名(安田ゼミ2名、市岡ゼミ2名、堂下ゼミ6名、太田ゼミ3名)の24名が参加しました。安田農一学部長の挨拶に続き、8つのグループによるグループディスカッションが行われました。堂下恵准教授による「外国人旅行者の動向」、太田哲専任講師による「おもてなしの新たな切り口」、市岡浩子教授による「観光まちづくり」という問題提起型発表があり、それぞれの発表後、発表テーマに沿って、藤沢市の外国人旅行者受入に関することや藤沢市の住民同士の交流、藤沢市の魅力や産学連携の可能性についてグループディスカッション、グループ発表を行うという密度の濃い内容となりました。また、竹内一真専任講師による「SGSでのキャリア教育」や学生たちによる「SGSのゼミ活動」、安田学部長による「マカオ大学への短期留学プログラム紹介」等、SGSの教育の紹介も行われました。最後に、藤沢と広域観光圏を形成する地域をどうすればよいかのディスカッションを行い、全体で意見を共有して広域観光圏を決め、再度グループディスカッションによってネーミングを考え、ネーミング案を共有し、SGS教員が総括を行い、充実した7時間のセミナーは終了しました。

参加者からは、今回のセミナーでは、それぞれのグループで藤沢の観光の現状を考え、広域観光圏を決めてネーミング案を考え、共有する段階まで進めることができたので、メディアを使ってこの内容を発表した方が良いという前向きな提案がありました。また、今後についても、今回の内容を中心に、さらに深く議論し、違った切り口で藤沢の観光振興を考えていくために、開催を期待するという声が多く聞かれました。



「ゼミ力の多摩大・SGSのゼミ」と「高等学校教諭一種免許状(英語)の認定」

「ゼミ力の多摩大・SGSのゼミ」

本学では「ゼミ力の多摩大」を合言葉に、ゼミ教育に力を入れています。

寺島学長が主宰する全学横断の問題解決型ゼミであるインターゼミは、多様な経験、研究分野、年齢構成によるプロジェクトチームで、文献研究とフィールドワークに基づき問題解決策をまとめていきます。毎週土曜日5時限(16:20~17:50)に、九段サテライトでおこなっています。

グローバルスタディーズ学部は、2016年度から3、4年次を対象にゼミが正課科目として開講されます。本年度と次年度は、正課外としてトライアルゼミナールを開講していますが、担当教員と少人数の学生が同一テーマの下で共同作業をおこなう形式は同様です。今年度は、1月31日から2月10日に複数のゼミが統合型リゾート(IR)を学ぶために、香港、マカオに留学しました。ゼミには、担当教員の違いにより、様々な専門分野がありますので、自分の目標とする学びに合ったゼミ選びをしてください。

※ゼミナール(演習)とは、担当教員がテーマを設定し、学生が主体的に調査・発表などを行い、専門分野を掘り下げる授業形式のことで。

「高等学校教諭一種免許状(英語)が認定されました」

平成26年度に文部科学省に認定申請をしておりました、教職課程「高等学校教諭一種免許状(英語)」について、2月4日に文部科学省より認定されました。この認定により、教員を志望する学生の皆様は、大学卒業後高等学校の教員になるための教員免許状を取得することができます。また、平成27年度には、「中学校教諭一種免許状(英語)」を申請する予定です。

教員免許状取得を希望する学生は、卒業に必要な単位に加えて、教職課程の授業科目を履修して単位を修得することが必要です。「教職に関する科目」には「教育原理」「教育心理学」「教職概論」「教育課程総論」「教育相談」「生徒・進路指導論」「特別活動」などがあります。また、教職課程で取得した単位は、本学卒業要件の単位にはなりませんが、「教科に関する科目」は、本学卒業要件の単位にもなり、かつ教員免許状取得の単位にもなります。

この様に、実際に教員免許状を取得するためには、相当な覚悟と努力が必要になります。教員になる夢を適えたいという学生は、大きな志を持って、資格取得に挑戦してください。皆様の夢の実現のために、本学の教職員がバックアップをいたします。

教職課程に関する問い合わせ先:教務課 TEL 0466-21-7738

藤沢市歌合唱

☆湘南台地区賀詞交換会☆

1月10日(土)に 藤沢市湘南台地区の賀詞交換会が湘南台市民センターで開催されました。藤沢市長も参加して行われた会に、本学学生の日頃の地域貢献活動が評価され、学生10名と学生課長が招待を受けました。

オープニングの藤沢市歌の合唱に、本学学生にぜひ歌っていただきたいとの打診を1か月前前に受けました。正直、本格的な合唱経験のない学生のごと、依頼を断ると思いましたが、「ぜひチャレンジしたい」との申し出を受け、俄かに練習を開始しました。幸いにも、交流のある藤沢市立六会中学校の協力をいただき、地区が異なるにも関わらず、音楽教員によるレッスンを2日間受けることができました。地域交流の大切さ、ありがたさを改めて感じています。

当日は、緊張感もあり、練習ほどの声は出ていませんでしたが、地域の皆さまから盛大な拍手をいただき、達成感、充実感を得ることができました。



キャリア支援課

4年生にとっては卒業まであと約一ヶ月となってきましたが、本学部4年生の2月10日時点での内定率は約80%です。今年度も益々企業側の採用意欲も高くまだまだ多くの求人情報が本学にも届いています。春休みに突入していますが未内定の学生については個別相談を徹底することや求人情報などを提供することで、卒業式までにはほとんどの学生が進路先を確定できると思われまます。

また、3年生については今年度から就職活動時期が大幅に後ろ倒しとなり本格的にスタートするのが3月となりますが、昨年12月以降企業側も必死でいい人材を探しており、Onedayのインターンシップなどが昨年以上に活発に行われています。本学部でも2月17日、18日、19日を皮切りに3月以降も採用意欲が高い企業にお越しいただき業界セミナーや学内合同企業説明会を開催し、学生達の企業選びの場を提供してまいります。

別表1 2015年2月13日現在(重複内定含む)

主な内定先		
製造業	(株) 明光商会、ザ・バック(株)、クロレラ工業(株)、竹本容器(株)	
情報通信業	(株) 大塚商会、(株) NSP	
運輸業、郵便業	ジェットスター・ジャパン(株)、国際自動車(株)、SBSロジコム(株)、内外日東(株)、ナカムラエアークスプレス(株)	
卸売業、小売業	(株) 柏圭、神奈川トヨタ自動車(株)、(株) ファイブフォックス、(株) オオゼキ、湘南菱油(株)、(株) サマンサタバサジャパンリミテッド、横浜日野自動車(株)、(株) チョダ、(株) アーバンリサーチ、(株) ケイ・ウノ、古河産業(株)、(株) コナカ、(株) ルック、(株) JAL-DFS、ラオックス(株)、(株) クロスカンパニー、(株) エービーシー・マート、日邦産業(株)、イトキン(株)	
金融・保険業	日本生命保険(相)、(株) ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング、三井生命保険(株)、明治安田生命保険(相)、ブロードマインド(株)	
不動産業	三井ホーム(株)、(株) 湘南ミサワホーム不動産、城南建設(株)	
飲食店、宿泊業	(株) タリーズコーヒー、ホテル南風荘、Novotel Singapore Clarke Quay、(株) 横浜グランドインターコンチネンタルホテル、(株) いなとり荘、リゾートトラスト(株)、日本マクドナルド(株)、(株) 三光マーケティングフーズ	
医療、福祉	富士白苑、湘南鎌倉総合病院	
教育、学習支援業	(株) 臨海、(株) ティプロス	
サービス業	専門サービス	(株) インテリジェンス
	生活関連サービス業	(株) ボディワークホールディングス、(株) エイチ・アイ・エス、(株) JR東海バスセンジャーズ、ANAテレマート(株)

3年生対象 学内合同企業説明会

6日間のチャンス!!

スケジュール ① 2/17(火)、18(水)、19(木)
② 3/10(火)、11(水)、12(木)

11:00~12:00 事前講座 ①E201 ②W301 (合同企業説明会のまわり方)
13:00~13:30 事前説明会 (各企業様より一言)
13:30~16:40 合同企業説明会 (40分×4回制)
服装 : リクルートスーツ (髪型、鞆、Yシャツ、靴 きちんと確認してください)
持ち物 : 手帳、筆記用具、メモ帳 「予約は不要」です!

参加企業 約50社予定

参加企業の一例を紹介します。
すべての参加予定企業は、**キャリア支援課**前に掲示しています。

- ・(株) JTBコーポレートセールス(旅行)
- ・トレーディア(株) (国際物流)
- ・古河産業(株) (商社(金属))
- ・(株) 寺岡精工(メーカー(精密機器))
- ・ネットヨタ湘南(株) (ディーラー) など

国際交流課

交換留学生 受入れ

台湾 国立暨南国際大学から3名の女子学生がSGSに入学します。SGSそして日本での生活をとても楽しみにしていますので、彼女達を案内したい場所、一緒に体験してみたいことがありましたら、是非ご提案ください。

夏休み短期留学説明会

4月7日(火)と10日(金)ランチタイムに予定しています。

交換留学体験記 (台湾 国立暨南国際大学)

渡邊かえで・木村慶彦 (2014年秋学期に留学)

国立暨南国際大学のキャンパスはとて大きく自然豊かでとても勉強しやすい環境でした。学生はもちろん、みなさんととても親切で沢山の友達を作ることができ、週末には旅行にいたり夜市に色々連れてもらったりと、色々な場所に行くことができました!

一番の思い出は、夜に近くの有名観光地「日月潭」に行ったことです。勉強はもちろん、充実した5カ月間を過ごす事が出来ました! 1つ1つがかけがえのない大切な思い出です!



「虹の色」

Kimiyo Murata-Soraci

定年退職：村田 ソラチ 喜美代 先生

2009年、多摩大学グローバルスタディーズ学部に着任して6年の歳月が流れ、この3月末で定年退職いたします。振り返れば、6年という短い教鞭期間でしたが、グローバル社会で活躍できるに相応しい知性と教養をもつ人材を育成するという教育理念の基に新設された本学部に働き場を与えられ、皆さま方と出会い、交わりの時節が与えられたこと、そして教育理念の実践に参加できたことは言葉に言い尽くせない感謝です。

私は西洋哲学、政治哲学、倫理、及び東洋思想を主に担当してきました。なかには向学心の非常に熱い学生、英語ノイローゼにかかっている学生、就職活動の圧迫のなかで自己の志や生きる指針を失い苦しんでいる学生にも接しました。そんな折、学生達に講義を通して聞いたことは、グローバル社会に通じる学問、教養とは何か？でした。

何のための学問か。何のための教養か。教養とは、他者に関わる感性ではないでしょうか。グローバル化、グローバル市場、グローバル教育等々、グローバルという言葉や価値観が数多に氾濫し、津々浦々遍く浸透している現代社会。しかし一方では、貧困、差別、力による征服、非人道的テロリズム等々のグローバルな深まりも否めない現実です。現代を背負い、未来社会を切り拓き創造して行ってくれる学生達に、私が望んでやまないのは、自然をも含めた、いと小さき生命がもつ尊厳と可能性に仕えてゆく姿勢と、実存の足場が学問や教養の本来的な方向性ではなからうか？という問いかけです。いと小さき生命への感性をもってこそ、グローバルな知性学識は血肉化され、生きる力となりグローバルな平和と共生を求めて勇気ある一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。

私は、グローバルスタディーズ学部が、教養の本来的な方向性を見失うことなく、グローバル人材ではなく真の知性をもつグローバル人物を熏陶する出会いの場であり続けるようにと、祈っております。定年前の教師を暖かく送り出してくださいと、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

「さらなる広がり求めて」

Wataru Nakazawa

異動：中澤 弥 先生



グローバルスタディーズ学部では設立当初から8年間を過ごしてきましたが、4月から多摩キャンパスの経営情報学部へ異動いたします。とはいえ、「湘南の文学」の講義を引き続き担当する予定になっていますので、SGSから完全に離れてしまうというわけではありません。もちろん、同じ多摩大学の教員であることにも変わりありません。

もともと日本の近代文学という、いたってローカルな分野を専門としていたので、「グローバル」という言葉にはあまりなじみのない気もしていました。ところが、実際に海外の大学では日本の文化を教える講座も以前より増加しているようです。知人も含めて、日本に留学した人が母国に戻って研究を続けるという例も多くなり、日本の文学だから日本人だけで研究していればよいという訳にもいなくなっているのが現状です。分りやすい例でいえば、村上春樹の小説が世界中で読まれているという事実からしても、日本文学の読者は日本人だというのは自明のことでは無くなりました。そして、それは日本語という言語だけの問題でもありません。

実際に、私もこの数年で二度にわたって上海に行き、調査をしたり、中国・台湾の学者や大学院生たちの前で研究発表をしたりしました。ちょうど万国博覧会があって、上海の町並みも激変している時期ではありましたが、一方で川沿いのバンドと呼ばれる地区では、100年ほど前の建物がキレイに修復されるなど、かつての雰囲気を楽しむことができるようになっていました。そしてなにより、中国の研究者と共通の話題でもりあがるというのは（それには中国の先生たちが日本語堪能であるということが大きかったですが）楽しい経験でありました。その後、今度は京都で上海の大学の先生を招いてシンポジウムを開くという企画に関わるという経験も積みました。

そもそも日本の文学研究が遅れていたのに過ぎなくて、いまさらと言われそうですが、これも「グローバル化」の一端であることには違いがありません。

新たな環境のもと、さらに知見を広げて学生に伝えることができると考えています。

新年度学生会執行部 始動

学生会は会員(在学生全員が会員)の総意に基づいて、組織内に所属する各種団体、サークル活動を通じ、より良い学園生活、学生活動を行うため、学生全体の発展、本学の発展・向上、および地域に貢献することを目的としています。

学生会では、1月に平成27(2015)年度学生会会長選挙を実施し、2年生の田畑空音さんが選出され、学生会執行部役員が任命されました。新体制のもと、学生会の活動(学内イベント、学園祭、サークル、地域貢献)に参加し、リーダーシップ力を養い、協調性を身につけるなど、全学生が積極的に取り組むことを期待しています。

平成27(2015)年度 学生会執行部役員

部長	田畑 空音 (2年)
副部長	山本 有紀 (2年)・園原 真由子 (1年)
書記	田中 美博 (2年)・八重樫 弥生 (1年)
会計	菊池 誠則 (2年)・佐藤 彩果 (1年)
サークル連合代表	原口 元太 (2年 軽音楽「音多摩」)

※部長、副部長は、学園祭実行委員長、実行副委員長を兼務します。